

# 播磨 ミステリーハント

播磨町の歴史や偉人の「?」と「!」について、秘められたトピックスなども交えながら紹介します。

文責 播磨町郷土資料館 宮柳靖  
☎079(435)5000

## Mystery.2

### オーロラ・<sup>すいせい</sup>彗星・日食は 不吉な兆候!?

「Heco・彗星」が誕生し、星空を舞台に今年も天体ショーが見られます。4月下旬から5月にかけて天体望遠鏡で、北の空にパンスターズ彗星が一晩中見られます。8月にペルセウス座流星群、11月にはアイソン彗星が肉眼でも見られます。

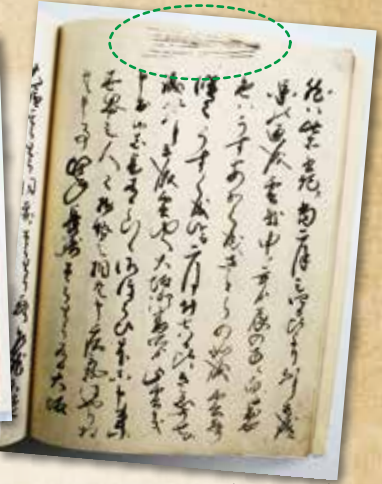
古代の人々も、天空で起こる日食や月食に強い関心を持っていました。247年、邪馬台国の女王「卑弥呼」が亡くなると、太陽が欠けながら沈む日食が起こりました。人々は不吉な兆候ととらえ、この世の終わりを告げる現象ではないかと思い、パニックになったようです。

また、1300年以上前の飛鳥時代、天武天皇は、日本で初めて占星台を建て、国を挙げて天体観測に取り組みました。日本書紀には、天武11(682)年「火の色をした幡はたのような形のものが見れ…」と記され、オーロラの観測記録が、天武13(684)年にはハレー彗星の記録があり、これは彗星の最古の観測記録とされています。

当時、天体観測のマニュアルとして使用された中国の歴史書「晋書」<sup>しんじょ</sup>では、オーロラは兵乱、彗星は大水害が起こる予兆とされていました。特に、一番恐れられていたのは日食で、「君主に過失があれば、日は必ずそれを知らせる。日の色が消えうせるとき、国は衰退する」とされ、天が発する人間への警告とされていました。



▲御月見日記(中巻表紙)



▲日記中唯一の図入り(丸印部分) 彗星を記録した天保14(1843)年の記録

資料館所蔵の御月見日記は、享保5(1720)年から明治30(1897)年までの約180年間にわたって書き継がれた記録で、3冊から成っています。正月15日の満月がどこに沈むかにより、その年の善し悪しや洪水・台風・日照りなどを占って書き記したことから「御月見日記」と呼ばれています。観測場所は、現在の播磨小学校北東の山陽電車の線路沿いで、多くは北本荘の蓮花寺あたりに沈む月を観察したものです。オーロラのこと3回記され、「空が火事のように焼け…」と書かれています。これは、低緯度オーロラと呼ばれるもので、そのほとんどが赤い色をしているため、当時の人々は何事が起こったのかと驚いたようです。また、彗星は5回登場し、疫病が流行するのではないかと恐れられました。さらに、寛保2(1742)年5月朔日には皆既日食ついたちがあり、「しばらく闇の夜ようになった。これまで比類のないことだ」と書かれ、世間を騒がせたようです。彗星に思いを馳せながら、今年も天体ショーを楽しみたいものです。

播磨町のホームページ http://www.town.harima.lg.jp

Eメール kikaku@town.harima.lg.jp



町の人口 4月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,763人 (-55人)	男...17,043人 (-37人)	世帯数...14,203世帯 (+30世帯)
	女...17,720人 (-18人)	